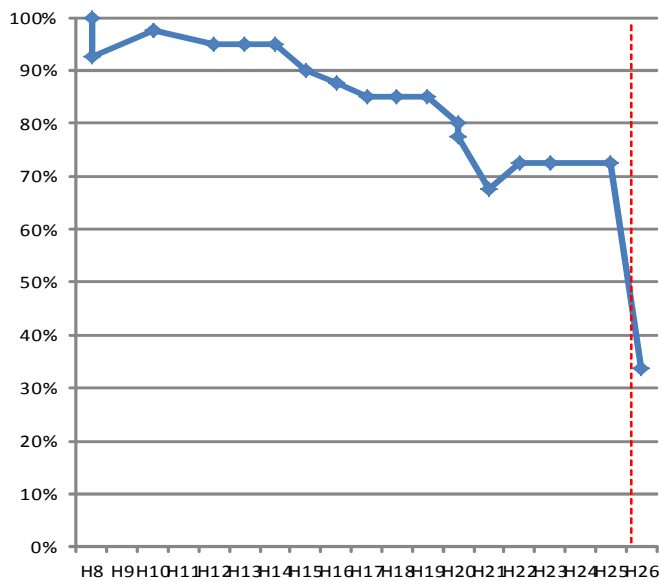


樹種名	ヤマグリ（別名：シバグリ）	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Castanea crenata</i>	
分 布	日本と朝鮮半島南部原産。北海道西南部から本州、四国、九州に分布。暖帯から温帯域に分布し、特に暖帯上部に多産する場合があります、これをクリ帯という。	
樹木特性	陽樹であり、温帯のブナ林と暖帯の照葉樹林に挟まれた中間温帯を代表する樹種で、低山地に生育する。 伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約20 cm前後で萌芽本数は30本以上である。	
用 途	坑木、枕木、建築、土木、家具、器具、船舶、車輛、彫刻、旋作、鍛冶用の炭、しいたけ原木など広く用いられている。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	270 本／0.08ha (3500 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 クリのうち、各栽培品種の原種で山野に自生するものは、シバグリ（柴栗）またはヤマグリ（山栗）と呼ばれる。 落葉高木で、高さ17m、幹の直径は80cm、あるいはそれ以上になる。樹皮は灰色で厚く、縦に深い裂け目を生じる。葉は長楕円形か長楕円状披針形、やや薄くてパリパリしている。表はつやがあり、裏はやや色が薄い。周囲には鋭く突き出した小さな鋸歯が並ぶ。雌雄同株で、いずれも5月から6月に開花する。雄花は穂状で斜めに立ち上がり、全体にクリーム色を帯びた白で、個々の花は小さいものの目を引く。また、香りが強い。非常によく昆虫が集まる。	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後クリタマバチによる被害が一部に発生したが、早期に処理（被害枝の切り取り・焼却）したため軽微な被害で終息した。 また、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。植栽から18年が経過した現在の平均樹高は15m程度にまで成長している。	
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。 (延べ駆除本数 コウモリガ：82本、カミキリムシ類：5本)	

ヤマグリ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死（12本）が発生した。

平成21年度に枯死と判定したが萌芽により復活している。

林内の照度調整を図るため平成15年、18年、21年度に本数調整伐（8本）を実施した。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は33.7%であった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したヤマグリが3本存在している。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

順調に成長している。

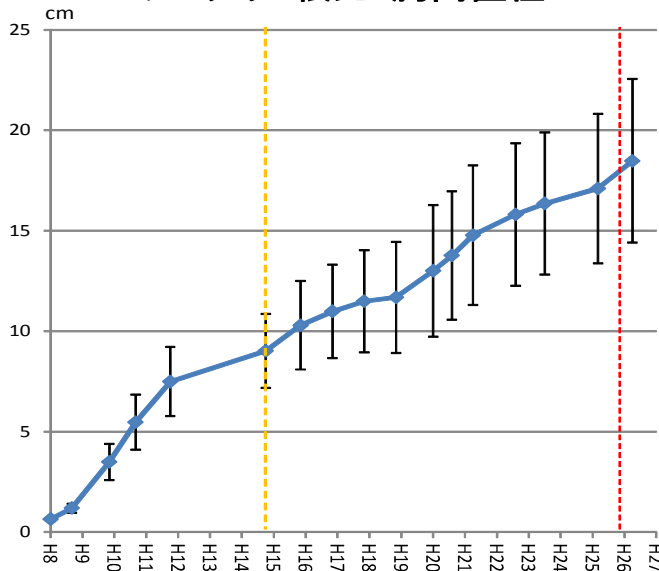
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は18.48cmであった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したヤマグリの平均胸高直径は11.52cmであり、植栽木が肥大成長が良好である。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ヤマグリ 根元・胸高直径



【樹 高】

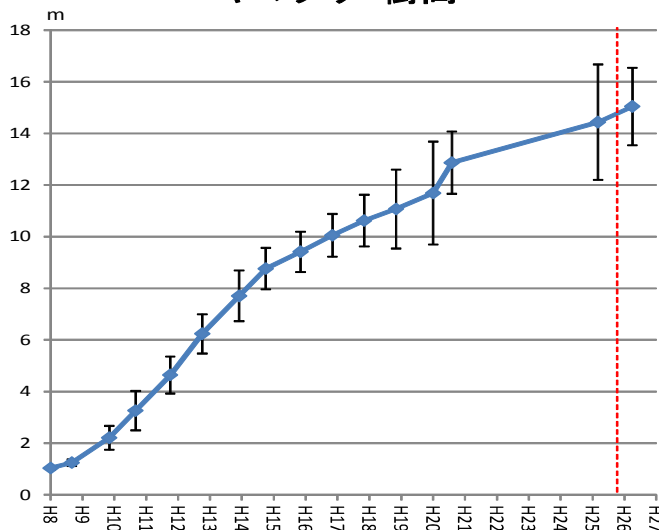
順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は15.04mであった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したヤマグリの樹高は9.24mであり、植栽木が上長生長が良好である。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ヤマグリ 樹高



《プチ情報》

クリ材は耐湿が強く耐朽性、保存性が極めて高いことから、坑木、枕木、建築、土木、家具、器具、船舶、車輛、彫刻、旋作、鍛冶用の炭、しいたけ原木など広く用いられている。